令和４年度　晴海中学校　自己評価報告書

中央区立晴海中学校　　所在地：東京都中央区晴海１丁目５番３号

校長名：藤江敏郎　　副校長：山﨑雄功

生徒数５２１名（１年１９２名、２年１６１名、３年１６８名）　学級数１５

教職員数　　教員３０名　都講師３名　　区講師６名　ＡＬＴ１名　　栄養士１名　主事４名

スクールカウンセラー２名　スクールソーシャルワーカー１名

特別支援教室専門員１名　心の教室相談員２名　学校業務支援員１名　図書館指導員１名

学習指導補助員８名

１　重点目標の達成状況及び取組状況

＜重点目標の評価について＞

重点目標１

「生徒の学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す教員の授業力の向上」

（１）シラバスの充実と活用

①年間指導計画の作成にあたり教科横断的な指導の策定を行い、授業内容や生徒へのアプローチの仕方、評価の方法など明確にすることにより学習意欲を高めることができた。

②各教科での話合い活動が計画的に行われており、その成果により言語能力・表現力が身に付いている。また、授業では、クラス発表にとどまることなく、朝礼や総合的な学習の時間など学年全体が集まり学年内で発表を行うなど、より良い表現方法を身に付けた。

（２）基礎学力の定着

学校評価のアンケートの

②　教科横断的な指導計画を作成し、学習効果を指導の工夫をしている。

②個に応じた指導を徹底し、生徒の基礎学力が身に付くように教えている。

③学習内容を工夫し、生徒の学習意欲が向上するような授業をしている。

④生徒の学力を観点別評価により適切に評価し、自身の授業改善に役立てている。

の４つの質問項目について生徒自身は 90％前後、肯定的な回答をしている。授業を通して生徒の学習に対するモチベーションを高めるための教材研究や声かけ、アプローチの仕方など工夫し、その成果が出た。

授業規律については、どの教科もしっかり行えており教師と生徒の良好な信頼関係のもと学習活動が展開された。

（３）教師の指導力向上

①４月当初に言語活動に力を入れることや「晴海中ミニマム」（全教科で取り組む指導上の留意点）を意識し、全教員で実践することを再確認した。学習力サポートテストの結果や生徒の授業評価に基づき授業改善に取り組んだ。

②教員により ICT に関する指導力に差があるが、ICT 支援員を活用しタブレット端末を使用した様々な学習に取り組んだ。また、教科内での ICT の活用方法や指導法の打合せ、お互いの授業見学など OJT を活用した取組により教員の指導力は確実に向上した。若手教員が積極的にベテラン教員に指導方法や評価などについてアドバイスを受け、授業に取り入れる姿が多くみられ

た。

（４）積み重ねの学習指導の工夫と場の設定

学校評価アンケートの

⑤生徒の家庭学習の習慣が身に付くような働きかけや指導の工夫をしている。

⑥モーニングタイムの朝学習や放課後の質問教室など学習機会を通じて生徒の学習意欲の向上に役立つようにしている。

の⑤⑥項目については、８０％に届かずその成果が十分でないとなっている。一人一人の生徒が自ら課題に向き合う姿勢やそれを援助する工夫改善がさらに求められる。また、⑥については、生徒が帰宅してからの生活が忙しく、なかなか学習の時間が取れないという現実もある。

（５）各種検定の全員受検

・１年生が漢字検定、２年生が英語検定、３年生が数学検定を学年全員で受検した。授業が始まる前のモーニングタイムや放課後の補習教室において検定級の取得目標を立てさせ計画的に取り組むことができた。生徒の検定級に挑戦する意識が高く、２級や準１級に挑戦する生徒もみられた。

重点目標２

「生徒の活動の場を意図的に増やし、生徒を鍛え、充実した３年間を過ごす。

（１）生徒の活躍の場を設定

・生徒会本部役員が中心となり、生徒主体で各委員会の充実した取組が増えた。

生徒会本部：あいさつ運動、ありがとうの木（感謝を伝える）、エコキャップ回収、古本回収、いじめ撲滅キャンペーン、生徒朝礼の司会進行

生活委員会：挨拶がどれだけできているか、その人数を数える「カチカチ運動」

美化委員会：清掃時間が時間通りに終わり、隅などにゴミが落ちていないか「クリーン合戦」

体育委員会：朝、頭をすっきりさせるために 8:30 から教室内で放送による「全校一斉ラジオ体操」

１チーム 15 人、学年男女問わずチームを作りオープン参加の「ドッチボール大会」

保健委員会：「ハンカチ、ティッシュ調べ」

給食委員会：給食を残さず完食を目指す「残食０キャンペーン」

報道委員会：黙食の給食を少しでも楽しくしようと「ラジオ企画」という題名でクイズ・トークショー・時事問題・歌の紹介・３年生への応援メッセージなど報道委員がＭＣとなり楽しい時間を提供した。

これらの企画は、生徒が主体となり企画・運営を行った。また、キャンペーンなどでは、１位・２位と順位を決め、委員長が生徒朝礼で表彰をした。生徒たちの力で生徒朝礼や学年集会などが行える力がついてきた。

（２）生徒の成長と人権教育の推進

①道徳科の時間や学級活動などで人との関わり方やその配慮について考える機会を継続的に実施した。また、自己理解を深めさせ、差別・偏見をもたないように指導した。

②生徒会による「いじめ撲滅キャンペーン」など生徒の自主的な取組は継続しているが、意識に差があり課題をもつ生徒も一部いた。今後も道徳教育・体験学習・奉仕活動を柱に「共生」「博愛」の心を育てる取組を進める。

（３）安全教育の充実

生徒が主体的に防災に取り組むためにパターン化された訓練から脱却した。

①安全教育推進校としての活動の指導いただいた慶應義塾大学環境情報学部准教授の大木先生と同研究室の学生の協力により、避難訓練では実際にけが人が出た状態を設定し実動訓練を定期的に行った。生徒一人一人が、与えられた状況の中で自分たちは何をしなければならないのかを判断する力がついた。

②総合的な学習の時間においての学年ごとに課題を決め実施した。

１年生：自ら避難訓練を想定し、起きそうなこと、その対応を考えそれを発表しクラス・学年で共有した。

２年生：避難所設営を理解し、避難所を設営する上で様々な問題に対応するシュミレーション訓練を行った。

３年生：防災小説の作成を行った。（防災小説とは、自分が主人公の物語で発災した時の状況やその対応について書く小説で、「小説は希望をもって終えること」が約束事である。）その防災小説は、クラス内で発表し、その後学年発表を行い、同じ取組をしている全国の中学校とオンラインで発表と意見交換を行った。

２　重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

（１）生徒主体の避難訓練の実施を行った。

（２）運動会・合唱コンクールなど全校で取り組む行事において縦割りの活動を行い、上級生が下級生に指導・助言を行い、責任感や協力、思いやりの心が育った。

（３）クラスルームを活用し、学校からの連絡や学校だより、学年通信など積極的に発信した。

（４）保護者からの出欠の連絡をオンラインで使い行った。

（５）小中連携においては、年に２回の授業観察と情報交換を行った。１回目は６月に小学校の教員が中学校に訪れ、卒業生の成長を見るとともに情報交換を行った。２回目は２月に晴海中学校の教員が小学校を訪問し、晴海中学校に進学する生徒を中心に授業見学と情報交換を行った。８月 30 日に部活動体験を実施し、小学生とともに中学１・2 年生が活動した。

（６）感染対策については、毎日の検温と適宜必要に応じて消毒を行った。また、教室にはサーキュレーター・空気洗浄機を設置するとともに、定期的に室内の換気を行った。

（７）施設の特色を生かした晴海保育園やマイホーム晴海との交流は、本年度も実施できなかった。来年度においては、ボランティア活動を中心に交流を深めていきたいと願っている。

（８）学校説明会では、本校の特色ある活動を積極的にアピールし、理解を深められた。また、その説明会では、学校生活について生徒会が作成した学校紹介ビデオ・部活動紹介ビデオなど紹介するとともに生徒会役員が校舎案内を行った。

3　今後の改善の方策

（1）安全教育の充実

①安全教育として１年生は実動訓練・２年生は避難所設営・３年生は防災小説作成と学年ごとに課題を設定し身に付ける。避難訓練については、場面設定を工夫し生徒が主体的に考え行動できるように指導する。

②地域班を高層住宅ごとに分け、その高層住宅の防災についての確認を自治体の方と行う機会を設定する。

（2）ＩＣＴを活用した授業改善

ＩＣＴに関する研修を年度当初に行い、学習活動において必要となるコンピューター等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、さらにこのような学習活動を行う上で必要となる基本的な操作やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティなどの資質・能力を身に付ける。

（3）学習意欲の向上

①人の発言をしっかり聞き、意見交換をし、認め合う，学び合う授業環境をつくり、授業規律をさらに確かなものにし、落ち着いた学習環境をつくる。

②何につまずいているのか、何に興味・関心があるのかをしっかり把握し、少人数授業や習熟度別授業の工夫をする。

③段階的に難易度を上げるスモールステップによる課題解決の場や機会を意図的に設定し、個に応じた賞賛や励まし、評価を行い生徒に達成感をもたせる。

（4）生きる力を育む

①学習活動、学校行事、委員会活動、部活動、日常の生活など多方面から個に応じた課題を与え、その解決を援助し見守る指導を行う。その過程での成功や失敗の体験を大切にさせる。

②ありのままの自分を認めて好意的に考え、自分の良い点も悪い点も受け入れた価値観を身に付けさせる。